

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0195000229		
法人名	社会福祉法人 北見陸会		
事業所名	グループホームかがやきの里むつみ5号館・6号館		
所在地	北見市端野町端野25番2		
自己評価作成日	平成25年12月17日	評価結果市町村受理日	平成26年2月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL index.php?action_kouhvu_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0195000229

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ゆったり、少しづつ、自分らしく、ありのままを基本理念に基づき、健康、生活に不安なく安心して暮らしていけるよう支援しています。地域、町内会、保育所、小学校の慰問等もあり地域の方々とも交流をしたり月に一度以上の行事を持ち施設での生活を楽しんでいただけるよう職員一同で工夫し取り組んでいます。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市本町5丁目2-38
訪問調査日	平成26年1月14日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人共通の理念である【ゆったり、少しづつ、自分らしく、ありのままに・・・】を事業所理念として掲げゆったりとした時間の中で、利用者一人ひとりのペースに合わせて自分らしく生活できるようなサービスの提供を目標としています。併設されている小規模多機能事業所「むつみ」とは、利用者・職員が自由に行き来することができ、互いにコミュニケーションをとり易い環境になっています。地域密着型事業所として、地域の理解を得ており、地域住民を始めとし多くの協力を得られています。事業所主催の運営推進会議には町内会の方々に参加し、小学校・保育園の児童によるプラスバンド演奏・お遊戯会等の慰問活動も毎年行われており、良好な関係を築いています。利用者の健康面では法人専属の看護師が常に利用者の状況を把握し、かかりつけ医との連携をとることで利用者家族の方々に安心感を与えています。グループホーム運営の要である職員の教育に関しては、外部講師を招いて法人全体の合同勉強会を開催し、日々知識と技術の向上に努めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人共通理念を掲げ、スタッフ、入居者様と共にみやすい所に掲示している。入居者様一人ひとりがその人らしい生活ができるよう努力している。	設立当初からの理念である「ゆっくり・少しずつ・自分らしく・ありのままに」をリビング内に大きく掲示する事で職員が常に冷静な判断と、安全なケアをするうえで役立っています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会に加入し、地域清掃、花植への参加、町内会行事の案内(天候等により参加)、地域の保育園、小学生が慰問に来てくださいます。また、避難訓練、施設の焼肉会にもご協力くださり交流を深めています。	町内の清掃、花壇の手入れなど職員が積極的に参加し地域との連携を深めています。また近隣の小学校・保育園の児童が慰問に訪れ、ブラスバンド・お遊戯会など利用者にとって心とむ機会となっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	積極的に行っているとは言えないが、運営推進会議等で状態報告等をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様、ご家族、町内会、包括支援センター、地域民生委員等が構成員として会議を開き、事業所の報告をし、そこでの意見を反映できるようにスタッフへ伝えサービス向上を目指している。	運営推進会議で出された意見・要望を生かす為に職員で改善の方法を話し合い入居者へのサービス向上に繋げています。家族がより多く参加出来るよう行事日程を工夫しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	解らないことや困難事例に対して行政に相談し、ご指導いただいている。	社会福祉協議会・市役所の担当の方に積極的に連絡相談をし、課題解決に向けたアドバイスを頂いています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で身体拘束の研修会が行われ、理解を深め、施設全体で拘束を行わないケアに取り組むよう努めています。日中の施錠は行われていない。	職員全員が身体拘束・虐待についての研修に参加し、利用者の人権が守られるようなケアを実践しています。基本的に玄関は施錠せず、職員が目配りなどをして安心・安全の工夫に取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体で虐待の研修が行われ理解に努めている。また、入居者様の様子や入浴時、排泄介助時に身体チェックを行い、チェックシートを導入し、虐待防止に取り組んでいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要時には個々の関係者と話し合い、支援に努めています。日常支援、自立支援事業や成年後見制度について学んでいきたいと思っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご契約時、説明ご理解いただけるよう努めている。ご契約後も解らないことや疑問点は聞いていただき説明できるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様、ご家族から意見、要望があれば全体で話し合い要望等に応えられよう努めています。	運営推進会議に家族に参加していただき意見を頂戴したり、来訪時は出来るだけ話を聴くよう心掛けています。月に一度事業所だよりを送付し様子をお知らせしています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ヒヤリングやカンファレンス時に意見、提案、要望等を聞き業務の検討、改善に努めている。	年二回行われる職員カンファレンス・毎月のミーティング等で意見を反映できる体制になっており、職員自ら策定委員会に研修課題を要望するなど意見が尊重される仕組みになっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人全体で資格取得の研修や自己を高める研修を設け向上心アップにつながる努力はしているが給与水準、やりがいに不満を抱えるスタッフも少なくない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の内部研修に力を入れスタッフに参加を促している。外部研修も回覧し参加しやすいように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に参加することで同業者との交流の機会を設け、サービス向上に取り組むよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様と面談時より要望等を把握しご本人、ご家族、スタッフ情報を共有し安心感を持っていただけるような関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時よりご本人、ご家族様の要望等を把握するよう努め信頼関係を築くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族様が今何を必要としているのかを見極め、サービスにつなげられるプランを作成しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の希望、能力に応じ、出来ることは一緒にできるよう心がけ、ともに支えあえるように努めています。また、同じ立場に立ち共感できるよう努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、電話等でご本人の様子を報告し、ご家族様と情報を共有し、ともに支援していくことに努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様のご家族や友人、知人が来所できるようになっている。また、併設の小規模多機能事業所への行き来も自由である。	一人ひとりの生活歴を把握し、本人の希望に応じて、知人との面会や馴染みの理美容室への外出等、家族の協力も得ながら支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同志の関係を把握し孤立しないようスタッフ間に入り関わり合い支援できるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了度も関係を大切にし、必要時支援できるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話等で、ご本人の希望、思いをくみ取る努力をし、カンファレンス等で話し合い、困難時にはご家族様とも相談しご本人の思いに応えられるよう努めている。	施設長、管理者、職員は利用者との会話や様子などから意向や要望の把握に努めています。意向が把握出来ない場合は家族と連絡を密にし、日々の生活記録等の中から思いの把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント時、ご本人、ご家族からお話を伺い把握し、日々の会話からこれまでの生活歴を把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録にバイタル、食事量、水分量、排泄、時間による心身状態等を記録し変化を見落とさないよう現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月2回のカンファレンスを行い、思いや状態を踏まえご本人、ご家族、医療とも連携し意見等を反映させている。個々の施設プランを持ちスタッフ全員が同じケアを行えるよう努めている。	日々の生活記録、業務日誌などを基に、3～6ヶ月ごとにモニタリングを行い、状況に即した介護計画を作成しています。全職員が利用者に合わせ統一したサービスが提供できるよう、一人ひとりのケアプランを持ち把握しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の様子を生活記録や送りノートに記録し、スタッフ間で情報を共有しカンファレンスで必要事項を話し合い、実践、プランに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況や要望に応じてご本人、ご家族と相談し、可能な限り対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の慰問、カラオケや踊りの慰問のほかに花見、公園、外食、買い物等を楽しんでいただいている。安全面では緊急時に備え交番にも情報を提供している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族と相談し希望する医療機関に受診されている。ご家族が受診対応できない時や緊急時はこちらで対応し受診結果はご家族へ報告している。	かかりつけ医の受診は家族対応と成っていますが、歩行困難な場合などは事業所の看護師が対応しています。また医師や家族に生活記録や温度版などの記録提供を行い、連携を深めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフは日々の関わりの中で気付いた事や異変時は看護職や訪問看護師へ報告し指示を仰ぎ受診等対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者様が入院した際は、情報を提供し病院へも足を運び関係者やご家族とともに連携した関係作りをしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	法人全体で終末期の研修会が行われ理解に努めている。重度化した場合はその都度ご家族と当施設の限界も説明させていただきながら対応している。	入居時に重度化・看取りの指針を説明し、利用者、家族からの同意を得ています。症状悪化の際は家族・主治医・看護師・職員一体となって取り組める体制を構築しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時、緊急マニュアルが作成されておりスタッフと共有している。救命講習会には全員が参加し施設内にもAEDが設置されている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スタッフの緊急時の連絡網を作成している。年2回スタッフ全員が参加し避難訓練を行い問題点を検証し運営推進会議でも報告し消防や町内会の方からも意見を頂き反映して協力体制ができています。災害用の避難袋を用意している。	全職員参加の訓練が年二回5月・10月に町内会・消防職員などを交え、実際に利用者全員を避難場所まで誘導するなどの実践的な訓練を行っています。地域の方々の役割分担・冬季間の寒さ対策・持ち出し備品の管理等もされています。	災害マニュアルは職員全員が閲覧していますが、火災が起きた際の優先事項を職員が把握すると共に避難方法の周知徹底と災害時の連絡網の確認と方法について、更なる取り組みと工夫を期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の人格を尊重し言葉掛け等も気を付け話しているが、そうでない時もありスタッフ同志意識を高め合い誇りやプライバシーを損ねない対応に努めていきたい。	利用者と同じ目線で向き合い、程よい距離感を保ちながら呼びかけは苗字で呼びかける事で統一しています。年二回の職員カンファレンスの際も利用者の尊厳について話し合いが行われています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の望んでいることを表しやすい環境作りをし自己決定できるよう配慮している。言葉で表しにくい方は表情や行動等で納得できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあり職員のペースになりがちではあるが、入居者様の意思を確認し希望に添えるよう支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容はご本人のペースに合わせて行っている。毎月訪問の理容室が来られ確認をしている。毎日の服等も選んで着ていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の嗜好等に配慮している。行事食や誕生食も大切にしている。また食事準備や後片付けも一緒にしている。	職員同士が見直しを行いメニューに飽きさせない工夫を凝らしています。近隣の農家から野菜の差し入れを頂く事も多く、定期的に外食に行ったり等、気分転換を図っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ケース記録に一日の食事量、水分量を把握し対応している。一人ひとりの量、形状等でも提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを声掛けしている。必要に応じてスタッフが対応し清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンやサインを把握しトイレでの排泄に努めている。日中は二人介助にてトイレでの排尿を支援しています。	手足等を挟む事故を防止する為、事業所トイレの一部の扉は、カーテンにしてあります。可能な限りトイレでの排泄が続けられるよう、排泄チェック表による定時の声掛けや、利用者の様子などから推測してトイレ誘導をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルト、牛乳、食物繊維の含まれた食事の提供、水分摂取、運動への働きかけ等個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間帯は決めているが希望の有無を確認し入浴していただいている。	小規模多機能型事業所の機械浴槽を使用する利用者もあり、最低週二回以上は入浴できるようにしています。入浴の際は必ず身体チェック表に身体の状態を記載し、皮膚疾患、虐待等事故が起きないように配慮しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やリズムを大切に体調を見ながら安心して休息、睡眠していただけるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬の内容と理解に努めている。薬の変更等があった時は連絡ノートで情報等を共有し体調等の変化が見られた場合は看護師、病院等に連絡、対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しみを持ち過ごして戴けるよう努めている。その日の状況によってしたい事、出来ることを支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に添ってはなかなかできていないが、外食、買い物、ドライブ等出かける機会を設けている。	季節の行事に参加したり、事業所で焼肉会を開催したり、利用者がリフレッシュできる機会を設けています。遠方に出向く事が出来ない利用者も多いので、普段から日常品の買い物・外食などの外出支援に取り組んでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理ができる人が少ないので使う機会は少ないという現状があるが、買い物レク等外出してほしいものがあれば立替払いをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話や手紙の支援をしていきたいと思う。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには日差しが差し込みレースのカーテン等で日の調整をしている。加湿器等で整えている。壁には季節を感じる作品を飾ったり工夫をしている。	天井には天窓があり全体的に明るい雰囲気、事業所全般に清掃が行き届いています。加湿器・温度計などを設置し居心地の良い空間となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーに座られたり、横になられたり個々の思いの場所で過ごされている。テーブル配置も配慮し席替え等も工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は使い慣れた好みのもの、ご家族の写真等おかれたり、ご本人様の使いやすいよう、危険のないよう工夫している。	居室は全室洋間となっています。利用者は気に入った馴染みの家具を使ったり思い出の写真、品物を飾るなどして、思い思いに自分なりの生活空間を演出しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	壁、トイレ、廊下には手すりが配置されている。一人ひとりに自立した生活を送ることができるよう工夫している。		